



企画にあたって

多田隼人 (金沢大学附属病院循環器内科)

循環器病は、わが国においても主要な死因の主たる原因であり、その予防および治療はきわめて重要である。脂質異常症および糖尿病は循環器病の最重要原因疾患であり、その診断・治療が重要であることは自明である。これら疾患は古くから研究されすでに多くの確固たるエビデンスが存在し、いわば標準治療が確立しつつあることに加えて新規薬剤の登場により難治性の治療も容易になりつつある。例えば、本分野においてはスタチンやメトホルミンなど臨床的有用性がすでに明確とされ長らく使用される薬剤に加えて、近年の PCSK9 阻害薬や MTTP 阻害薬に加えて ANGPTL3 阻害薬の登場により、LDL-C についてはかなりの症例でコントロール可能となっている。さらに、SGLT2 阻害薬および GIP/GLP-1 受容体作動薬の登場により、循環器病予防に繋がる糖尿病治療も可能となっている。

このような分子標的薬時代において、本特集では、まずは臨床で遭遇する脂質異常症の基本的な考え方やガイドラインおよび対処法、さらには2型糖尿病とその合併症の考え方を解説し、特に新規薬剤を含めたこれら疾患の治療方針の基礎・応用を解説する。さらには災害大国ともいべきわが国において、災害時という非常時や周術期という頻繁に遭遇する非常時における糖尿病管理にも焦点を当て、日常あるいは非日常に至るまでの指針を提供する。本分野において、多くの読者が知りたいと考えられる基礎的な根幹から、より深く知りたい応用的領域まで広く深く情報を提供しているものと自負するところである。

循環器病の予防・治療において最重要疾患である脂質異常症および糖尿病診療は、非常に奥が深く一朝一夕で極みに到達することは難しいことであるものの、本特集の精読により、脂質異常症や糖尿病の基本を押さえるとともに、注意すべき疾患や病態、さらには最新の治療法をしっかりと理解していただく一助として頂きたい。